

氏 名	辻本 吉広
学位の種類	博士(医学)
学位記番号	第5528号
学位授与年月日	平成22年3月24日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項
学位論文名	Poor Glycemic Control is a Significant Predictor of Cardiovascular Events in Chronic Hemodialysis Patients with Diabetes (糖尿病維持透析患者における血糖コントロール不良は血管系疾患発症の有意な予測因子である)
論文審査委員	主 査 教 授 西沢 良記 副 査 教 授 末廣 茂文 副 査 教 授 仲谷 達也

論文内容の要旨

【目的】糖尿病透析患者において血糖コントロール不良が心血管系疾患発症に影響するかについては十分に明らかでない。糖尿病維持透析患者において血糖コントロール不良が新規心血管系疾患発症に影響するかを検討した。

【対象】2000年3月時点で井上病院(吹田市)にて維持透析を施行中の糖尿病患者134人を対象とした。

【方法】対象患者を5年間観察し、心血管系疾患(虚血性心疾患、脳出血、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症)の新規発症を記録した。観察開始時のHbA1cにより血糖コントロール良好群(HbA1c<7.0%、65人)と血糖コントロール不良群(HbA1c≥7.0%、69人)の2群に分け、新規心血管系疾患発症への影響を統計学的に検討した。

【結果】観察期間中に50人に新規心血管系疾患の発症がみられた。Kaplan-Meier法にて、血糖コントロール不良群では新規心血管系疾患の発症が有意に多かった(Log-rank test、 $p=0.0250$)。性別、年齢、透析年数、心血管疾患既往歴の有無で調整したCox比例ハザードモデル法においても血糖コントロール不良群は有意に発症が多かった(ハザード比1.828、95%信頼区間1.008-3.314、 $p=0.0470$)。血管閉塞性の心血管疾患(虚血性心疾患、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症)の発症に関してCox比例ハザードモデル法により解析すると、血糖コントロール不良群での新規発症のハザード比はさらに強くなり(ハザード比2.816、95%信頼区間1.377-5.759、 $p=0.0046$)、さらにHbA1c値は新規発症の有意な予測因子であった(ハザード比1.269、95%信頼区間1.022-1.574、 $p=0.0307$)。

【結論】糖尿病維持透析患者において血糖コントロール不良状態は心血管疾患の新規発症に有意に影響しており、透析患者においても血糖コントロールは重要である。

論文審査の結果の要旨

非腎不全の糖尿病患者では血糖コントロールが心血管系合併症の発症に影響することが知られているが、糖尿病透析患者では十分に明らかではない。本研究では糖尿病維持透析患者において血糖コントロール不良が新規心血管系疾患発症に影響するか否かについて検討がなされた。

2000年3月の時点で井上病院(吹田市)にて維持透析を施行中の糖尿病患者134人を対象患者として研究がおこなわれ、対象患者を5年間観察し、心血管系疾患(虚血性心疾患、脳出血、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症)の新規発症について検討した。観察開始時のHbA1cにより血糖コントロール良好群(HbA1c<7.0%、65人)と血糖コントロール不良群(HbA1c≥7.0%、69人)の2群に分け、新規心血管系疾患発症へ影響するかについて統計学的に解析が施行された。

5年間の観察期間中に50人の新規心血管系疾患の発症がみられた。Kaplan-Meier法にて、血糖コントロール不良群では新規心血管系疾患の発症が有意に多くみられる結果であった。性別、年齢、透析年数、心血管疾患既往歴の有無で調整したCox比例ハザードモデル法においても血糖コントロール不良群は有意に発症が多いことが示された。血管閉塞性の心血管疾患(虚血性心疾患、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症)の発症に関してCox比例ハザードモデル法により解析すると、血糖コントロール不良群での新規発症のハザード比はさらに高度となり、かつHbA1c値は新規発症の有意な予測因子である

ことが示された。

以上の結果より、糖尿病維持透析患者において血糖コントロール不良状態は心血管疾患の新規発症に有意に影響しており、透析患者においても血糖コントロールは重要であるという結論を示した。

以上の研究は、糖尿病維持透析患者においての血糖コントロールの重要性を明らかにしたものであり臨床的に重要な研究と考えられ、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと判定された。